



聴衆に向け、堂々と自分の思いを伝えた各校の代表者たち

— 令和7年度宇城市「少年の主張大会」が開催 — 思いを言葉にのせて

6/28 不知火防災拠点センターで市教委主催の宇城市少年の主張大会が開催され、市内各中学校の代表生徒5人がそれぞれ自分の思いを言葉にして、聴衆へ訴えかけました。松橋中3年の松本あずさんは「大会で発表したこの経験を今後に生かしていきたいです」と今回の大会を振り返りました。



手際よく材料を仕込んでいく参加者たち

— 年8回実施の男性の料理教室 — 健康的な食への関心を

6/26 市保健福祉センターで男性の料理教室が開催されました。男性の仲間づくり、健康づくり、料理の技術向上を目的に年8回、市食生活改善推進員協議会が主催しているもので22人が参加しました。初参加という北岡幸起さんは「家庭でも率先して料理を作れるようになるまで頑張ります」と話しました。



側溝の蓋を1枚ずつ外して、堆積した泥をかき出した

— 建設業協会宇城支部(青年部)がボランティア活動 — 建設業の力で地域貢献

6/13 建設業協会宇城支部(青年部)14人が側溝清掃のボランティア活動を行いました。この活動は同協会の地域貢献活動として、毎年行っており、8回目。今回は小野部田小学校校内の側溝を清掃しました。同校からは「日頃は清掃が困難な場所のため、非常に助かりました」と感謝の言葉が送られました。



(写真左から)濱本会長と末松市長

— 松崎地区自主防災組織を結成 — 地域で防災意識を高めるために

5/26 不知火町松崎区が市で118団体目となる自主防災会を結成。この日、末松市長が認定証を交付しました。同会の濱本 健 会長は「熊本地震から9年目となるが、今も各地で予想しない災害が起きているので、自主防災組織を地域住民の防災意識の高揚につなげていきたいです」と話しました。



鶏肉とレバーの石炭みそがらめを楽しむ生徒たち

— 世界文化遺産登録10周年を記念した特別給食 — 三角西港の歴史を表現した給食を提供

7/8 世界文化遺産登録10周年を記念し、市内小中学校17校で世界遺産を学ぶ特別な給食メニュー「鶏肉とレバーの石炭みそがらめ」を提供しました。メニューは、三角西港から輸出されていた石炭をイメージ。三角中3年の藤田瑛土さんは「自分たちも次世代に受け継いでいくことが大事だと思いました」と話していました。



出発式で参加者へ向けあいさつする坂本会長(写真中)

— 第75回“社会を明るくする運動” — 犯罪や非行のない社会を目指して

7/3 市役所で社会を明るくする運動の啓発パレード出発式が行われました。式では、宇城地区保護司会の坂本順三会長が来庁者などへ活動への理解を求めました。この活動は、毎年7月の「社会を明るくする運動の強化月間」に合わせて、商業施設や物産館を訪問し、犯罪や非行の防止などの啓発を目的に実施しています。



県担当者から石打ダムの説明を受ける児童たち

— 青海小の児童たちが三角町の石打ダムを見学 — 身近な暮らしの中にある水を学ぶ

6/17 青海小4年の児童15人がダムや浄水場の働きを知り、自分たちの生活へのつながりを考える学習を行うため、石打ダムを見学しました。児童たちは、県の担当者からダムの役割や構造、管理方法を学びました。見学後、児童たちは「生活の中で水が使える仕組みが初めて分かりました」と感謝を伝えました。



食生活改善推進員の指導でニンジン切る参加者

— 熊本県里親会主催の非常食体験会 — もしもの時に役立つ非常食づくり体験

6/14 親子で防災意識を高めてもらおうと、不知火防災拠点センターで県里親会主催の「非常食体験会」が初開催されました。同会の会員など約40人が参加したほか、市食生活改善推進員協議会も参加し、災害時などでも簡単に作れるポリ袋調理に挑戦。参加者からは「ポリ袋調理に驚いた」などの声が聞かれました。